

令和6年度 第3学期始業式 講話

本年は、穏やかな陽気による新年の幕開けとなりましたが、正月を迎えるに当たり、各々が昨年を顧みながら「一年の計」を立てたことと察します。また、皆さんが元気な姿で第3学期始業式に臨んでいることを嬉しく思います。

さて、本校は、本年（令和7年）、創立60周年を迎えます。60年というのは、人間の一生で考えれば、誕生した年の干支に戻る還暦を迎える年数であります。本校の創立は昭和48（1973）年ですが、我が国において経済成長が著しい昭和40（1965）年に設置された、上五島高等学校の奈良尾分校及び若松分校が前身となります。さらに、創立当初は、奈良尾及び若松の地にそれぞれ校舎が置かれ、昭和53（1979）年に現在の白魚の丘に統合校舎が竣工して従前の両校舎が閉じられ、現在に至っています。

創立60周年に際しての取組について、現在、同窓会等と協議を重ねています。現段階において、創立50周年以降の記録を集約することと、生徒はもちろんのこと保護者及び同窓生の方々を含む関係の皆さんが当事者として主体的に関わるイベントを催すことができないか思案しています。

また、こうした画期を活かし、皆さんには「つながり」を大切にしながら日々の営みを充実させていくことを期待します。「つながり」と言えば、最初に他者との関係が思い浮かぶのではないかと察するところです。「つながり」とは、地域社会も含む多様な方々との出会いや関わりを通じて、経験はもとより、相手を理解し付き合う、物事の本質を知る、物事を認識して是非・善悪を判断する能力という意味を持つ「知」にも及びます。

ところで、こうした「知」は、どのようにしたら備わるのでしょうか。このことについて、日々の努力の積み重ねが肝要であるということは言うまでもありませんが、やはり他者と「つながる」中で新たな気付きを得てリフレクションを重ね、「確かさ」が増していくものだと考えられます。その最も身近で効率的かつ効果的な取組とは、日々の授業に全力で臨み、家庭での予習及び復習も含めて、このことを習慣化し、継続していくことに他ありません。

本年は、「つながり」と「確かさ」を掛け合わせ、深い学びを経て新たな価値を創出しようとする気概に溢れ、研鑽が絶えない学舎となるよう、一人一人が自覚と目標を持って濃密な日々を過ごしていくことを願っています。